

第5章 不安・悩み

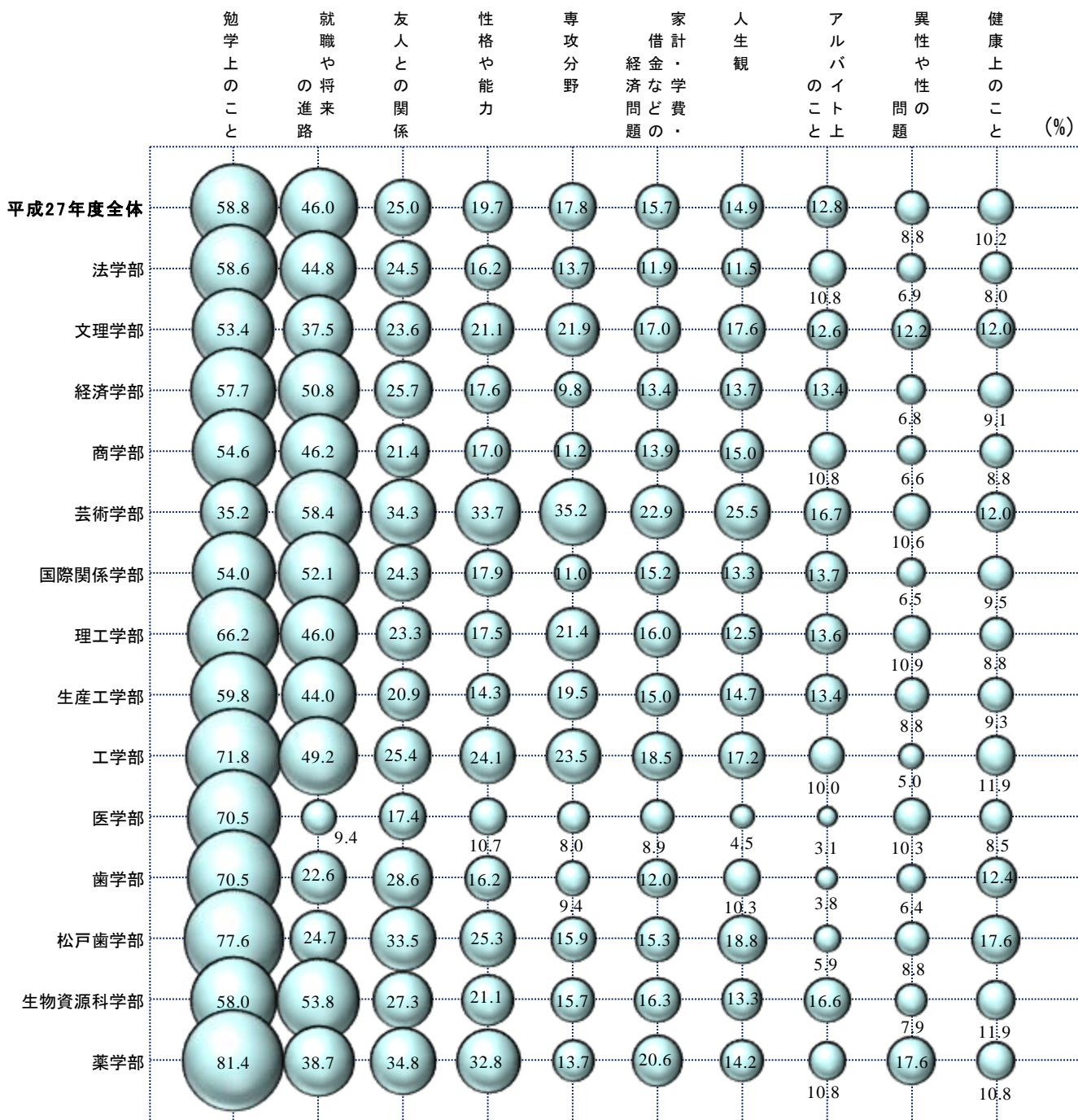
1.不安・悩み・問題(トラブル)の種類

本学学生の不安・悩みは、「勉学上のこと」が58.8%でトップ、「進路」が46.0%で続く。「勉学上」の悩みは医歯薬系学部、工学部で高い。

在学中に経験した不安・悩み・問題(トラブル)を全体で見ると、「勉学上のこと」が58.8%で最も高く、「就職や将来の進路」が46.0%で続いており、本学の学生にとって勉学と将来の進路が主な不安・悩みであることが分かります。次いで、「友人との関係」「性格・能力」「専攻分野」「家計・学費・借金などの経済問題」「人生観」の順で高くなっています。

学部別に見ると、勉学上の不安・悩みは、医歯薬系学部、工学部で高い傾向が見られます。「就職や将来の進路」についての悩みは、芸術学部・生物資源科学部・国際関係学部・経済学部で50%台と高くなっています。

図5-1 不安・悩み・問題(トラブル)の種類(平成27年度全体・学部別)

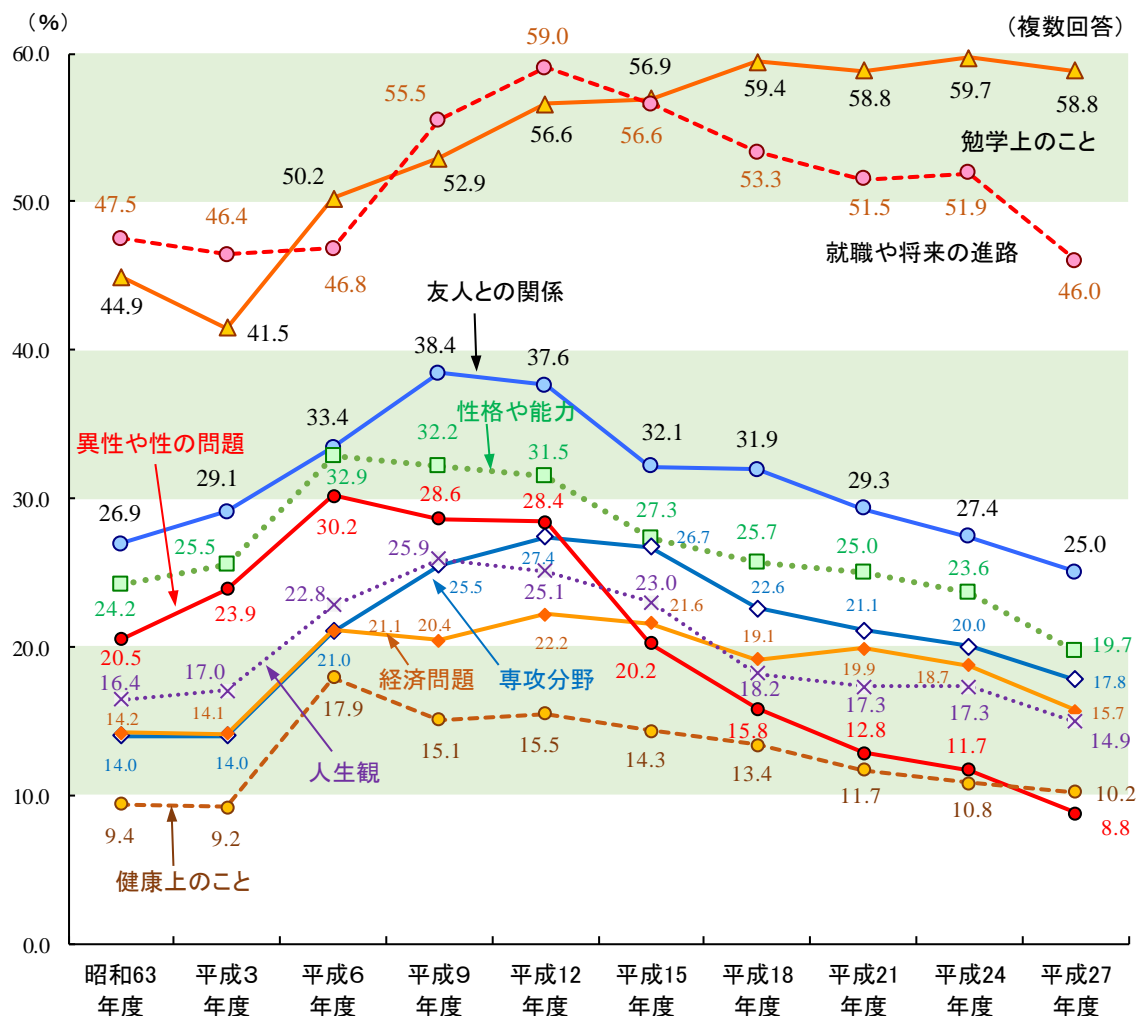


2.不安・悩み・問題(トラブル)の種類—主なものの経年変化

「勉学」についての不安・悩みはここ9年間横這い。
 「進路」は平成15年度から概ね減少傾向続く。学生指導の成果の表れ？
 勉学意識の高まりとともに、交友関係など他の悩みは大きく減少傾向。

学生が抱える不安・悩み・問題（トラブル）の主なものの経年変化を見ると、「勉学上のこと」が平成3年度の41.5%から平成18年度の59.4%まで15年間で17.9ポイント増加しましたが、ここ9年間は横ばい傾向となっています。ただし、歯学系学部と薬学部では漸増傾向が続いており、平成27年度までの24年間で30ポイント前後増加しています。「就職や将来の進路」は平成6年度から平成12年度まで急増し一時期学生の悩みのトップでしたが、平成15年度以降減少に転じ「勉学」を下回っています（平成12年度からの15年間で、文理学部・医学部・法学部では約20ポイント減）。社会情勢の変化も関係しているでしょうが、本学の就職や将来の進路を意識した学生指導が成果を上げていることがうかがえます。「友人との関係」は平成9年度をピークに減少傾向（医学部で25.0ポイント減と顕著）、「異性や性の問題」は平成6年度をピークに大幅な減少傾向（国際関係学部・生物資源科学部・芸術学部で25ポイント以上減と顕著）が続いています。また、「家計・学費・借金などの経済問題」はここ6年間で4.2ポイント減少しています。勉学以外の不安・悩みは、平成12年度頃から概ね減少傾向となっています。

図5-2 不安・悩み・問題(トラブル)の種類の経年変化(全体)



3.不安・悩み・問題(トラブル)の解決法

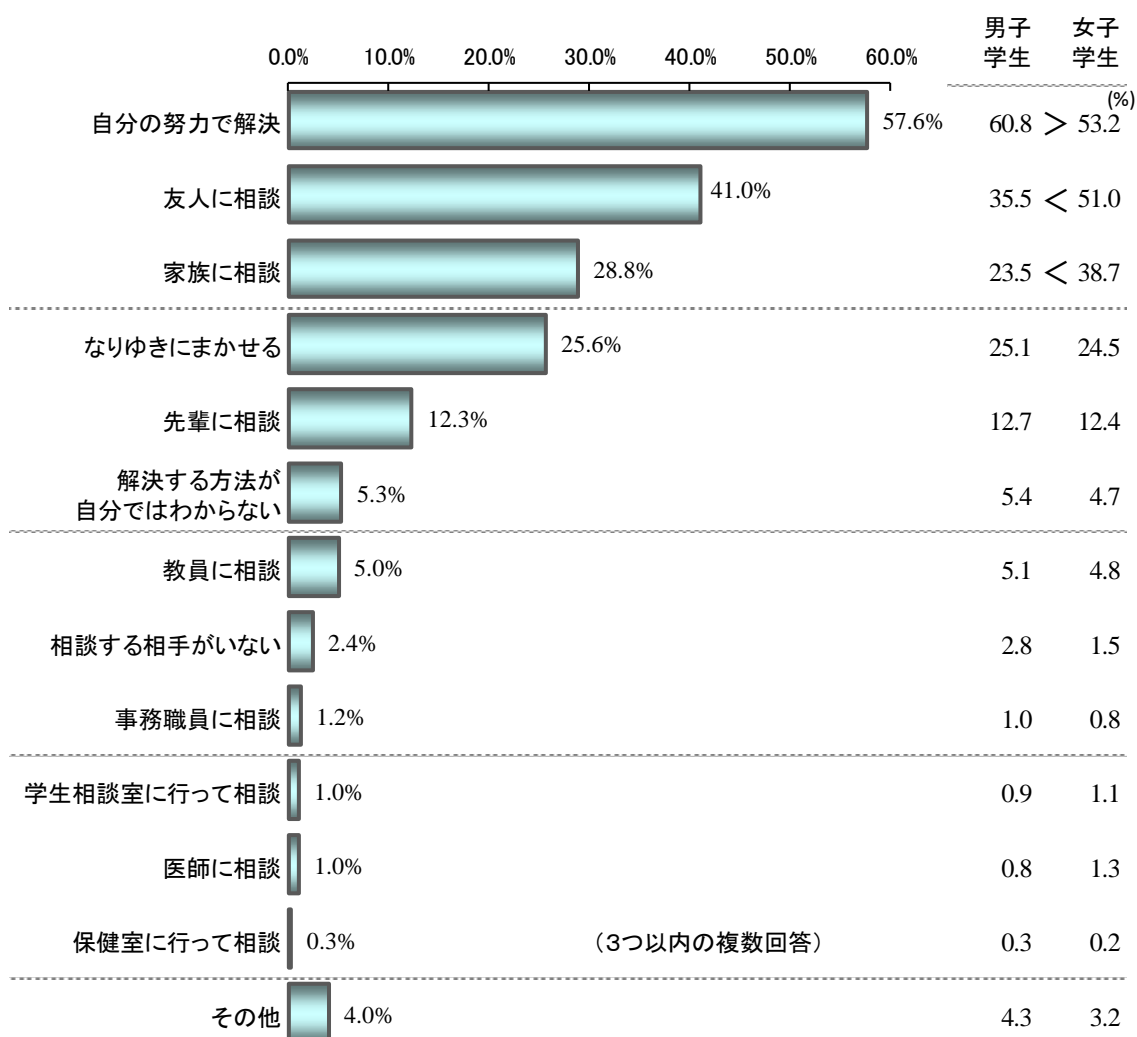
不安・悩みを「自分の努力で解決」する学生が57.6%。
 相談相手は友人がトップで家族・先輩が続く。教職員・窓口は低いのが現状。
 女子学生は男子学生より友人・家族に相談する傾向が強い。

不安・悩み・問題（トラブル）の解決法について全体で見ると、「自分の努力で解決」が57.6%でトップ、「友人に相談」が41.0%で2番目、「家族に相談」が28.8%、「なりゆきにまかせる」が25.6%で続いています。

不安・悩みのトップは「勉強上のこと」でしたが、教員に相談する学生は5.0%にとどまっています。相談相手として、事務職員・学生相談室・保健室は1%前後となっており、教職員や窓口は活用率が低いのが現状です。

男女別に見ると、「自分の努力で解決」は男性の60.8%に対し女性は53.2%、「友人に相談」は35.5%対51.0%、「家族に相談」は23.5%対38.7%となっており、女子学生は男性学生に比べ、自分の努力より友人や家族に相談して解決する傾向が強いようです。

図5-3 不安・悩み・問題(トラブル)の解決法(平成27年度全体)



4.不安・悩み・問題(トラブル)の解決法—主なものの経年変化

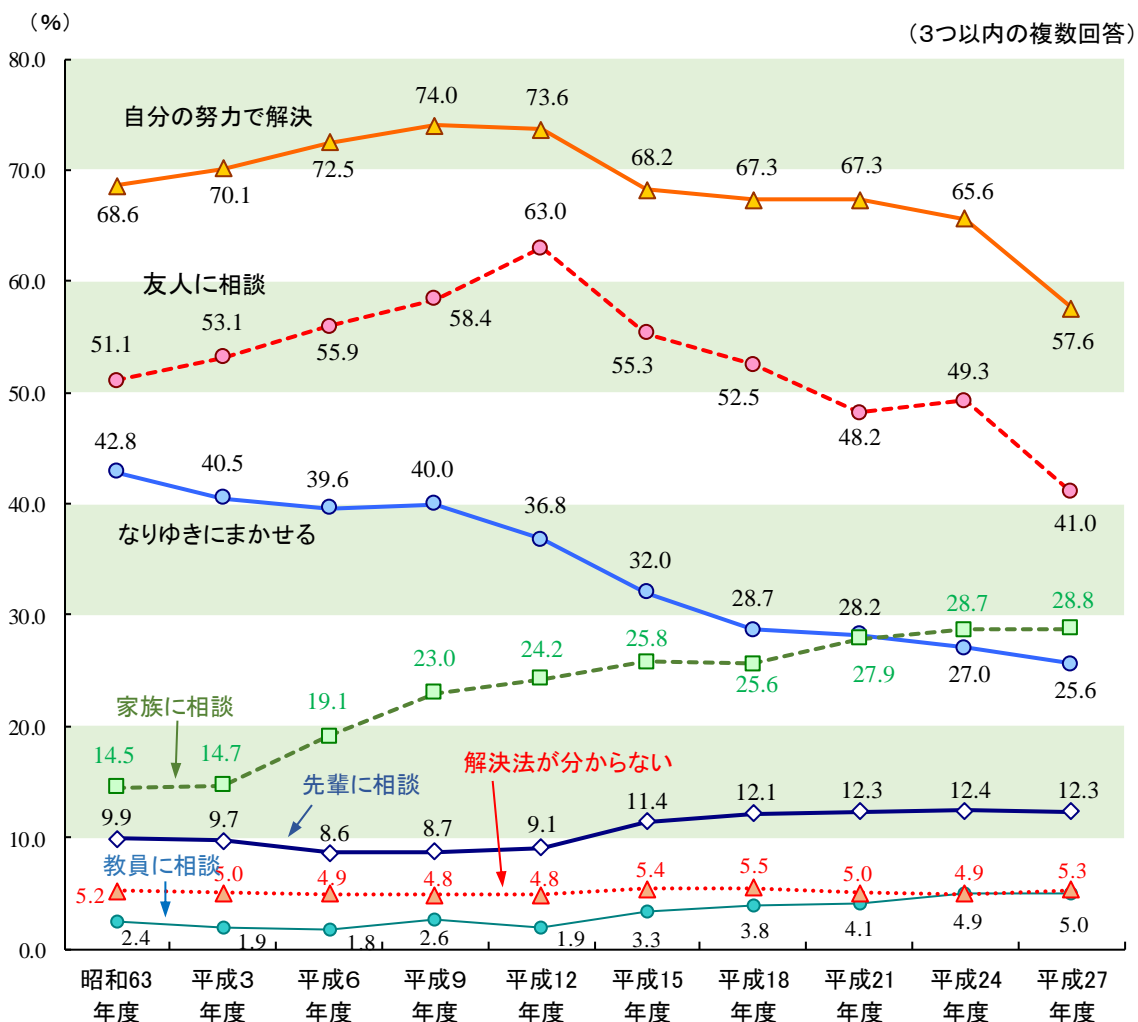
「自分の努力で解決」・「友人に相談」・「なりゆきにまかせる」が減少傾向。
勉学以外の不安・悩みの減少により、そうした機会が少なくなっている？

経年変化を見ると、「自分の努力で解決」は平成9年度の74.0%をピークに18年間で16.4ポイント減、「なりゆきにまかせる」は昭和63年度の42.8%から減少傾向が続き、27年間で17.2ポイント減少しています。

「友人に相談」は平成12年度の63.0%をピークに減少に転じ、15年間で22.0ポイント減少しています（医学部・文理学部では30ポイント前後減）。一方、相談相手として「家族」は昭和63年度の14.5%から増加傾向が続き、27年間で14.3ポイント増加しています。さらに「教員」も漸増傾向にあります。

不安・悩み・問題(トラブル)が勉学上のこと以外減少傾向にあることから、自分の努力で解決したり、友人に相談したりといった機会が減ってきているのかもしれない。

図5-4 不安・悩み・問題(トラブル)の解決法の経年変化(全体)



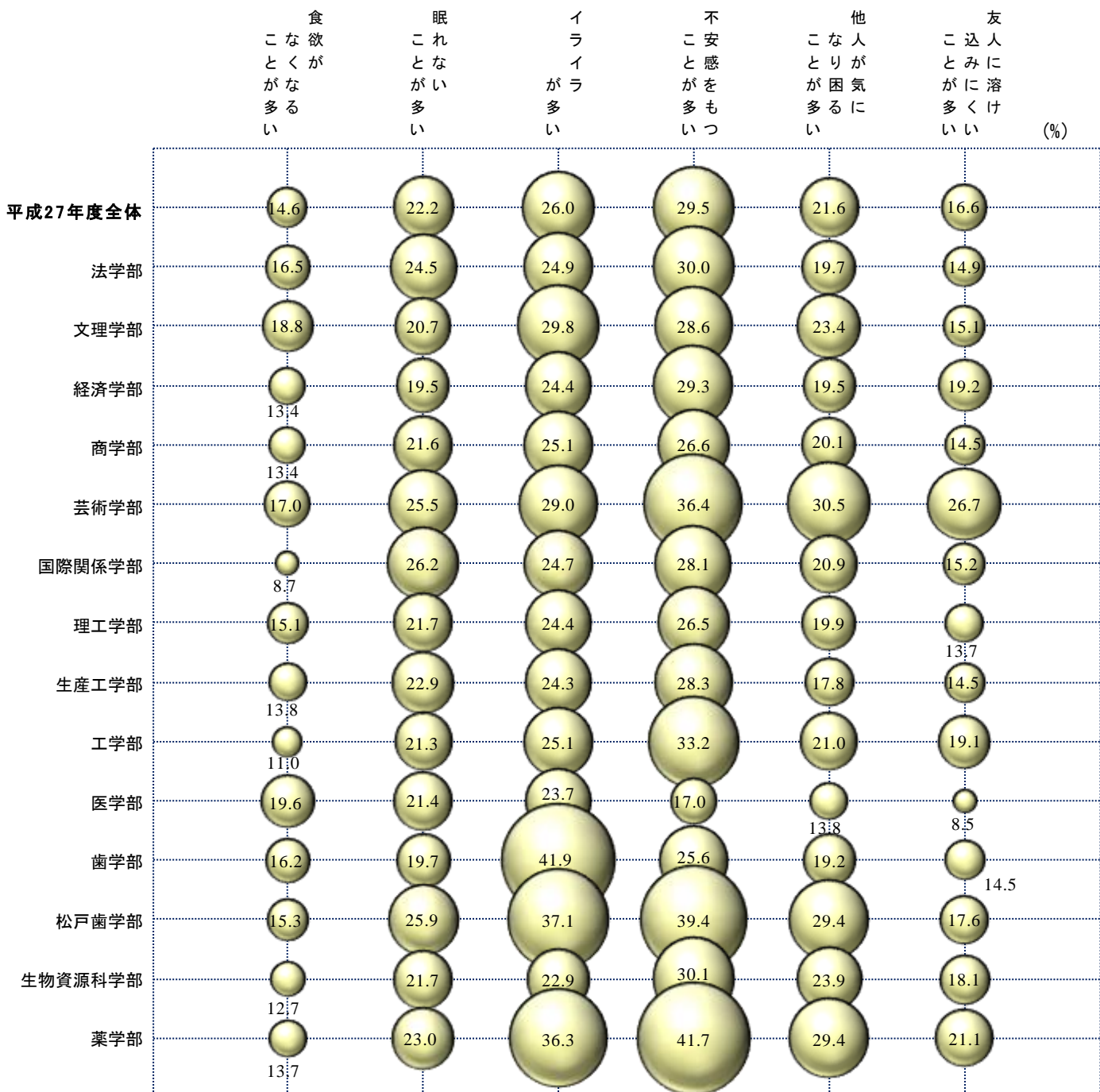
5.日頃の生活で気になること

日頃の生活で「不安感をもつことが多い」学生が29.5%。「イライラが多い」学生が26.0%。不安感・松戸歯学部・芸術学部の学生、イライラは歯学系学部と薬学部の学生で高め。

全体で見ると、日頃の生活で「不安感をもつことが多い」が29.5%、「イライラすることが多い」が26.0%、「眠れないことが多い」が22.2%、「他人が気になり困ることが多い」が21.6%、「友人に溶け込みにくいことが多い」が16.6%となっています。

学部間で若干差が見られ、「不安感をもつことが多い」は薬学部・松戸歯学部・芸術学部で40%前後と高く、「イライラが多い」は歯学系学部と薬学部で40%前後と高くなっています。

図5-5 日頃の生活で気になること(平成27年度全体・学部別)



6. 日頃の生活で気になることの経年変化

日頃の生活で「不安感」と「イライラ」が近年減少傾向。
不安・悩み・問題(トラブル)の減少を反映？

平成6年度からの経年変化を見ると、日頃の生活で「不安感をもつことが多い」学生が平成9年度から30%強で横這いとなっていました。平成21年度から減少に転じ、直近の9年間で4.0ポイント減となっています（文理学部・医学部・商学部で約8ポイント減）。「イライラが多い」学生は平成6年度から約30%でほぼ横這い傾向となっていました。直近の6年間で5.1ポイント減少しています（法学部・芸術学部・国際関係学部で9ポイント前後減少）。「不安感」や「イライラ」を感じる学生の比率は決して低いとは言えませんが、近年減少傾向にあります。

「眠れないことが多い」学生、「食欲がなくなることが多い」学生は直近の3年間で約3ポイント増加していますが、不安感は概ね減少傾向にあります。不安・悩み・問題(トラブル)が概して減少傾向にあることを反映しているものと考えられるでしょう。

図5-6 日頃の生活で気になることの経年変化(全体)

